

絵本のある子育て

～家庭から、そして地域へ
子ども読書活動交流集会
(地域・家庭文庫編)

発表者：小田 香澄

狭山市地域文庫連絡会
(河原文庫)

「児童館から発信！

心に残る読み聞かせや、お話し会を
目指して」

1 私と「河原文庫」との出会い

自分の子どもが小さかった時、児童館に通っていた。最初は読み聞かせを聞いている側だったが、読み聞かせをやってみないかと声をかけられたのがきっかけで、文庫活動を始めた。

2 児童館で、こんな事をしています

河原文庫は現在8人で活動している。狭山第三児童館で月1回「チャイルドルーム」でお話し会を担当している。これ以外にも様々なイベントを担当している。

3 地域文庫連絡会としての活動も

狭山市地域文庫連絡会は6つの文庫が参加している。毎月第2土曜日に図書館で「ぶんこのポケット」というお話し会をしている。年1回狭山市民文化祭にも参加し、お話しと手作り遊びの会を行い、毎年更新の、おすすめ本ブックリストを配布している。

4 児童館から始まり、地域へ

河原文庫は児童館での活動だけでなく、小学校、幼稚園、公民館、保育サークル等の依頼でお話し会をしている。

5 河原文庫のお話し会スタイル

河原文庫のお話し会は絵本の読み聞かせだけでなく、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアターなども取り入れている。そ

のため、バラエティーショーなどいろいろな呼ばれ方をするが、楽しんでもらえればこだわらない。

6 まず、「絵本を手にとること」を楽しむ
毎回同じ本を読まないために、常に本の情報網を広げるようにしている。図書館や書店に行って絵本を見たり、インターネットで他の人の感想をみて参考にしている。

そして読んだ本は必ず記録をとっている。(書誌事項、対象年齢、購入するかどうか等)

7 そして、気に入った絵本をみつけたら…
必ず読み聞かせをしてみる。1回で終わらせず、他の人に見てもらうことで、お話の輪を広げる。良かった絵本は、他の人にも薦める。子どもにも感想を聞いてみる。

8 絵本と一緒に楽しもう

絵本の読み聞かせだけでなく、手作り遊びも行い、子どもたちに、手先を使い、自分で作りあげる楽しみを味わってもらっている。特に、おりがみは、子どもにも保護者にも好評である。

9 実演

新聞紙でえぼしを作る。

10 昔も今も、児童館が大好き

自分の子ども時代にお気に入りの児童館で先生やボランティアの方と遊んだり、話しをした楽しい記憶がある。

河原文庫の児童館での読み聞かせが、子どもたちや、保護者の心の中に、楽しい思い出として残ってくれたら嬉しい。

また、この活動が誰かにとっての「大切な本」とめぐり会うきっかけになれば、と願っている。

○図書館員からアドバイス

金子浩（さいたま市立宮原図書館）

本を選ぶなら図書館で！子どもたちにどんな本を読んであげたら良いかわからないという人は、評価の定まった絵本に数多く親しみ、

まず本物を選び取る目を養うことから始めるべき。宣伝やブームに惑わされずに、公共的な立場で、数多く出版されている本の中から選び、揃えている図書館で選んで欲しい。

子どもたちは大人である私たちが想像もしないような視点で作品を楽しんでいる。大人が目線ではなく、子どもと一緒に絵本を楽しむことが大切。教育やしつけのためだけでなく、まず読み聞かせを楽しんで欲しい。

○子育て応援します

塩谷智紗子（あいのみ文庫・越谷市）

越谷市・文教大学内で週1回文庫活動をしている。毎回30～50人が利用している。近年、文庫に来る子どもたちの年齢がどんどん低くなってきている。小さなお子さん（就園前）を連れてお母さんが多くなった。そこで0歳からのおはなし会を始めた。

またお母さんに向けての講座「わくわく絵本教室」を昨年からはじめた。0歳児は絵本の前段階として、わらべうたや手あそびを取り入れている。わらべうたや手あそびは、自然に赤ちゃんの足や腕に触れたり、だっこして目と目をあわせることができる。少し前まではこういった事があたりまえのように行われていたが、今のお母さんは、赤ちゃんとの付き合い方がわからない人が多い。

赤ちゃん絵本がたくさん出版されているが、かえってどれを選んだらいいか迷ってしまう。そういう親子に、文庫では声をかけてお手伝いをしている。

まずお母さんに絵本を楽しんでもらいたい。

参加者による活動報告

- ・ 公民館で読み聞かせをしている。読み聞かせとお料理をいっしょにやっている。
- ・ 若いお母さんが自分の子をだっこできない。
- ・ 3人で家庭文庫をやっている。20年ぐらい前から読み聞かせをしているが、いろ

いろな制約のない文庫を始めた。

最初は土曜日だけおはなし会をしていたが、今は小さい子（0～2・3才）向けのおはなし会を水曜日に行っている。文庫だけでなく、お母さんと未就園児のいるところへおはなし会の出前をしている。

- ・ 文庫の世話役の高齢化と文庫に来る子どもたちが少なくなってしまったため、文庫を閉めた。今は学校や図書館でおはなし会をしている。
- ・ 子どもの来る人数は減りながらも30年家庭文庫を続けている。減ってはいるが、ゼロにはならず、2代目が来るようになった。
- ・ 2か月前から自宅で文庫を始めた。自宅前にチラシを置いただけだったが、文庫に通ってくれる親子がいる。
- ・ 図書館の場所を知らない母親が多い。

質疑・意見交換

- Q 研修会をうまく続けるには、どうしたらいいのか？
- A・メンバー全員が揃うことは難しい。また本を読む余裕がない人も多いので、一方的に情報提供をしている。
- ・ 経験のある人、図書館でお薦めの本を聞いてみることも大切。
 - ・ 年間4,000冊以上も児童書が出版されている。まず、自分でいろいろ読んでみて、経験をつむ。自分が大好きなだけではだめ。大勢の子どもに読み聞かせをするなら、絵が見えるかどうかも大切。
 - ・ お互いに読みあうとよい。
 - ・ 毎年テーマを決めてブックリストを作っている。そのためにたくさんの本を読まなければならないので、結果的にとても力がついている。